



The University of Human Environments Academic Repository

学位の種類	博士(看護学)
報告番号	甲第24号
学位記番号	看博第24号
氏名	服部 美穂
授与年月日	令和6年3月14日
学位論文題目	看護基礎教育における看護技術「整容」の教育内容の検討
審査委員	主査: 篠崎 恵美子 副査: 宮田 延実、山根 友絵

要約

I. 研究の背景

看護技術「整容」は、「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」, 「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」に, 基本的な看護技術として含まれている。また, 「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」に手技として, 学生が単独で実施できる水準とされている。いずれにしても, 看護基礎教育において修得すべき技術とされているが, 具体的に明示されていない。看護技術に関する図書には, 「整容」の見出しのないものもあり, その定義や技術項目はまちまちであった(服部ほか, 2021)。看護基礎教育で修得する基本的な看護技術は, 新しい情報や方法に触れないと革新されず(服部ほか, 2017), 日常生活行動の援助技術は学修した時のままの可能性が高い。つまり, 学修していてもそのような機会がなければ革新されることが難しく, そもそも学修していない可能性もある。専門職とは, 独自の専門的知識・技法に基づく仕事に従事し, それらに必要な知識や技術は長期の教育訓練でなければ獲得できない(井部・手島, 2023)とされている。専門職として看護技術の質を保証するため, 看護学分野における「整容」の定義, 「整容」と捉える行動を明確にし, 臨床に即した看護基礎教育で教授すべき看護技術「整容」の教育内容を精選, 標準化する必要がある。

II. 研究目的

日本の看護学分野における「整容」について定義し, 臨床に即した看護基礎教育で教授すべき看護技術「整容」の教育内容を検討すること。そのために第3段階で研究を行った。

III. 第1次研究: 「整容」の概念分析—看護基礎教育における看護技術「整容」の精選と標準化に向けて—

目的: 日本の看護学分野における「整容」の概念および「整容」と捉える行動を明らかにすること。

方法: Walker & Avant 概念分析法を用いた (Walker & Avant (2004) / 中木・川崎 (2008); Walker & Avant (2019))。医中誌 Web, 最新看護索引 Web, J-STAGE を用いて, キーワード「整容」and「看護」で検索した (2022年5月検索)。医中誌 Web 214件, 最

新看護索引 Web13 件, J-STAGE1,956 件が検索された. J-STAGE は 2017 年以降の 354 件を抽出し, 「整容」に関する記述のあるもの 27 件を抽出した. さらに看護大事典 1 冊, 看護技術教育での採用図書 9 冊 (服部ほか, 2021) を加えた, 合計 37 件を分析対象とした. 一般的な用法の確認に広辞苑, 大辞林, 医中誌 Web シソーラスを用いた.

結果: 10 の属性, 3 の先行要件, 9 の結果, 28 の経験的指示対象を抽出した. 日本の看護学分野における「整容」とは「人が, 生活習慣に従って外見を整える行動であり, 自分らしさを表現し, 自立した社会生活を送るために必要な行動である. 身体的・精神的な制限で自ら行うことができず, 看護師が行う場合, その人の生活習慣をふまえ, 起床から就寝まで快適にいられるようにするケアである. また, 患者の看取りにおいては, 最期の外見をその人らしく整えるケアである」と定義した. 「整容」と捉える行動は 28 項目であった.

考察: 日本の看護学分野における「整容」は, 人が外見を整える行動のみでなく, 看護師が行うケアを含む概念であった. これら看護学分野独自の属性を教授し, 抽出された経験的指示対象から, 看護技術「整容」の教育内容を精選、標準化していく必要がある.

IV. 第 2 次研究: 患者と看護師の「整容」に対する認識と入院中の「整容」の実態調査 ＜患者＞入院中の「整容」に対するニーズと援助の実態

目的: 入院中の「整容」に対するニーズと援助の実態について明らかにすること.

方法: ①対象: 2022 年 9 月までに 3 日以上入院したことが 1 回以上あり, Web による回答ができる 20 歳以上の成人または高齢者 200 名, ②調査方法: Web を用いた無記名自記式質問紙調査, ③調査内容: 属性 (年齢, 性別, 入院回数, 入院理由, 入院日数, 居住地 (都道府県), 疼痛, 睡眠, 活動, リハビリテーション, 面会, 病室の種類, 病室内の設備, 「整容」として普段行っている行動・30 項目の有無), 入院中も行いたい「整容」・30 項目の有無, 普段行っている「整容」ができない場合についての要望とその理由, 入院中に行った「整容」・30 項目の有無と介助の有無, だれの介助でも受けたい「整容」で, 入院中に介助を受けなかった「整容」とその理由, 「整容」に関するエピソード, ④分析: 各項目の記述統計を行った. 普段行っている「整容」と入院中も行いたい「整容」について, 項目ごとに χ^2 独立性の検定 ($\alpha = .05$), Fisher 直接確率検定 ($\alpha = .05$) を行い, 有意確率 p , 効果量 ϕ を確認した.

結果: 回答数 200 名, 有効回答率 100%であった. 8 割以上の男性が普段行っている「整

容」と入院中も行いたいと考える「整容」は同様に、トイレに行く（朝起きて・夜寝る前）（ $p<.001$, $\phi=.839$ ）等、6項目であり、いずれの項目も強い関連があり、普段行っている「整容」を入院中も行いたいと回答した人が有意に多かった。8割以上の女性が普段行っている「整容」と入院中も行いたいと考える「整容」は同様に、お風呂に入る・シャワーを浴びる（ $p<.001$, $\phi=.805$ ）等、9項目であり、いずれも強い関連があり、男性同様に普段行っている「整容」を入院中も行いたいと回答した人が有意に多かった。すべての「整容」において、約7割以上の患者が、入院中自分で「整容」ができていた。
考察：患者は、治療や検査等に影響がなければ、普段行っている「整容」を入院中も行いたいというニーズを持っており、入院中、実際に概ね患者が自分で行っていた。

<看護師が看護基礎教育で教授すべきと考える「整容」と援助の実態>

目的：看護師が看護基礎教育で教授すべきと考える「整容」と援助の実態について明らかにすること。

方法：①対象：3県6施設の一般病棟に勤務し、「整容」を実施している看護師395名
②調査方法：Web調査による無記名自記式質問紙調査、③調査内容：属性（性別、年齢、入院経験、看護師経験年数、専門学歴、「整容」に関する授業の有無、「整容」に関する研修の有無、勤務する部署の看護体制、平均受け持ち患者数、「整容」として普段自分に行っている行動・29項目の有無）、看護基礎教育で教授すべきと考える「整容」・33項目の有無、直近7日間の勤務で行った「整容」・33項目の有無とその主な理由、「整容」に関するエピソード、④分析：各項目の記述統計を行った。普段自分に行っている「整容」および直近7日間の勤務で行った「整容」と、看護基礎教育で教授すべきと考える「整容」について、項目ごとに χ^2 独立性の検定（ $\alpha=.05$ ）、Fisher直接確率検定（ $\alpha=.05$ ）を行い、有意確率 p 、効果量 ϕ を確認した。

結果：回答数175名、回収率44.3%、有効回答率100%であった。8割以上の看護師が普段自分に行っている「整容」は、洗顔・顔を拭く等、12項目であった。5割以上の看護師が看護基礎教育で教授すべきと考える「整容」はエンゼルケア等、9項目であった。5割以上の看護師が直近7日間で行った「整容」は入れ歯を洗う等、9項目であった。5割以上の看護師が、看護基礎教育で教授すべきと考える「整容」9項目のうち、からだを拭く（ $p<.001$, $\phi=.302$ ）等の5項目は、直近7日間で行った「整容」と関連があり、直近7日間でケアとして実施した人が、有意に教授すべきと回答していた。また、

頭を洗う ($p=.005$, $\phi=.214$) 等の 3 項目は、看護師が普段自分に行っている「整容」と弱い関連があり、普段自分に行っている人が、有意に教授すべきと回答していた。エンゼルケアは弱い関連が示されたが、回答の割合に有意差はなかった。

考察：看護師が教授すべきと考えている「整容」はエンゼルケアが最も多く、毎日頻回に実施する援助ではなく、学ぶ機会が限られているためではないかと考える。エンゼルケア以外は、看護師が普段自分に行っている「整容」や、勤務で行うことが多い「整容」と関連しており、教授すべきと考えていると推測する。

V. 第 3 次研究：看護系大学教員が考える看護基礎教育における看護技術「整容」の教育内容

目的：看護系大学教員が考える看護技術「整容」の最小限必要な教育内容として、技術項目と修得レベルの合意を得ること。

方法：①デザイン：デルファイ法を用いた量的記述的研究、②対象：日本看護系大学協議会・会員校 295 校の看護技術「整容」または清潔に関する単元を担当している教員 298 名、③調査方法：Web 調査による無記名自記式質問紙調査、④実施期間：2023 年 1 月（第 1 ラウンド）、2 月（第 2 ラウンド）、3 月（第 3 ラウンド）、⑤調査内容：属性（年齢、性別、看護教員経験年数、専門学歴、所属領域、授業担当年数、「整容」の教育年次、「整容」で演習している項目・34 項目の有無、「整容」を単元として教育していない場合の看護技術系の授業で教育している項目・34 項目の有無）、「整容」・34 項目のうち、看護技術を教授する科目の時間数が、60%に短縮されとしても教授すべきであるとする教育内容について〔同意する〕か〔同意しない〕の二者択一、〔同意する〕場合の修得レベルについて〔知識レベル〕か〔実施レベル〕の二者択一、⑥分析：項目ごとに同意率を算出した。修得レベルについては〔知識レベル〕、〔実施レベル〕を選択した人の割合を各々算出した。合意を示す同意率は 90%とした。

結果：参加人数は第 1 回 85 名、第 2 回 66 名、第 3 回 49 名であった。全員が基礎看護学領域に所属し、教育年次は 1・2 年次であった。最終的に同意率 90%以上であった教育内容は、洗顔・顔を拭く等の 4 項目であった。求める修得レベルはすべて実施レベルであった。一般的に高い同意率とされる 70%以上の項目は 12 項目であった。

考察：看護系大学教員が考える看護基礎教育における看護技術「整容」は 4 項目であり、求める修得レベルは実施レベルであった。これらの項目は、清潔を主な目的とし、臨床

で行うことが多いケアのため、最小限必要な教育内容と考えていると推測する。他の単元の教育内容との重複を考慮し、看護技術「整容」の精選、標準化が必要である。

VI. 全体考察・提言と今後の課題

概念分析と実態調査から、人が生活習慣に従って自立して行うことが「整容」であり、できる限り自分で入院中も行いたいと考えていることが明らかとなった。患者が自ら「整容」ができない場合は、患者の生活習慣をふまえ、なるべく自分で行えるようにケアすること、たとえ自分で行えなくても、患者が起床から就寝まで快適にいられるように、外見のみでなく身の回りまでを整えることが「整容」であると教育する必要がある。

多くの患者が普段行っている「整容」10項目、看護師が教授すべきと考える9項目、看護系大学教員が教授すべきと合意の得られた12項目から、現在、清潔の単元で教授されていることが多い項目については、「整容」としての目的もあることを教育する必要がある。それ以外の爪切り、整髪、ひげそり、寝具や掛物を整えるの4項目と概念モデルで看護学分野独自の特徴を例示し、看護師が最も教授すべきと考えるエンゼルケアを含めた5項目を看護技術「整容」の最小限必要な技術項目とすることを提言する。

各技術項目の修得レベルは、患者が快適にいられるように、常に必要な整髪、寝具や掛物を整えるは実施レベルを提言する。爪切り、ひげそりについては、爪や皮膚に異常がない人に対して行うことを標準化し、実施レベルの修得を提言する。エンゼルケアについては、教育年次を考慮し、知識レベルでの修得を提言する。今後は、家族、基礎看護学領域以外の看護学領域の教員および現任教育に携わる看護師の観点からも調査をし、概念を洗練化させるとともに、実現可能性を確認していく必要がある。

キーワード：整容 看護技術 看護基礎教育 概念分析 デルファイ法

学籍番号 9121002	学生氏名 服部 美穂
学位論文題目 看護基礎教育における看護技術「整容」の教育内容の検討	
<p>本研究は、看護技術「整容」に着目した研究である。専門職として看護技術の質を保証するため、看護学分野における「整容」の定義、「整容」と捉える行動を明確にし、臨床に即した看護基礎教育で教授すべき看護技術「整容」の教育内容を精選、標準化を試みた点では、評価できる。</p> <p>本研究では、日本の看護学分野における「整容」について定義し、臨床に即した看護基礎教育で教授すべき看護技術「整容」の教育内容を検討することを目的としている。そのために3つの研究が実施されている。</p> <p>第1次研究においては、看護基礎教育における看護技術「整容」の精選と標準化を目指し、日本の看護学分野における「整容」の概念を明らかにすることを目的に Walker & Avant の概念分析法を用いた。その結果10の属性、3の先行要件、9の結果、28の経験的指示対象を抽出した。</p> <p>第2次研究では、患者と看護師の「整容」に対する認識と入院中の「整容」の実態調査を行った。その結果、患者は、普段行っている「整容」を入院中も行いたいというニーズを持っており、入院中は概ね患者自身が自分で行っていた。看護師が教授すべきと考えているのは、エンゼルケアが最も多く、それ以外は、看護師が普段自分で行っている「整容」や、勤務で行うことが多い「整容」と関連しており、教授すべきと考えていた。</p> <p>第3次研究では、看護系大学教員が考える看護技術「整容」の最小限必要な教育内容について、技術の項目とその修得レベルの合意を得ることを目的に、3ラウンドのデルファイ法を実施した。看護基礎教育における看護技術「整容」は清潔を主な目的とする4項目であり、求める修得レベルは全て実施レベルであった。</p> <p>高度な医療や専門分化、タスク・シフト/シェアが進む今だからこそ、「整容」に着目し概念を明確にしたうえで、今後の基礎教育について提言していることは、非常に意義深いと考える。なお、研究期間をとおして、一つ一つを丁寧に誠実に取り組んできた態度は、研究者として優れていると評価できる。</p> <p>本論文の一部は日本看護技術学会誌に原著論文として掲載されている。また East Asian Forum of Nursing Scholars2024 に発表した。</p>	
2024年 2月 2日	
論文審査委員会 主査	教授 篠崎恵美子
同 副査	教授 宮田 延実
同 副査	教授 山根 友絵